

お米づくりはまず「土力の素・ミネラルG」の投入から



喜ばれる「みなみ筑後」の米づくり重点事項

- 1. 売れる米づくり
(1) 品質の良い米づくり
・種子更新の徹底
・刈取り1週間前の落水
・移植時期の遵守
・夢つくし(6月15日頃)
・元気つくし(6月18日頃)
・ヒノヒカリ以降の品種(6月25日以降)
・ふるい目1.85mm以上
(2) うまか米づくり
・多肥栽培絶対厳禁
・過乾燥防止、玄米目標水分14.5%
・タンパク含有率、目標6.8%以下
(3) 省力・低コストで安全な米づくり
・適期防除で散布回数の軽減
・作業受委託、機械の共同化
2. 農作業事故ゼロ

JA 米生産基準

- 種子更新・農産物検査の受検・栽培管理表の記載の3つの要件を満たしたお米を、JA米として扱います。
① 肥料・農薬・生産資材は原則として、こよみ・資材の注文書に記載されているものを使用すること。
② 適期適量施肥及び農薬の適正使用と飛散防止対策を徹底すること。
③ 適期収穫に努め、米袋で出荷する場合は表示が正しいか確認すること。
④ 栽培履歴に記入漏れや間違いがないか確認すること。
⑤ JA米とそれ以外を区分してJAに出荷すること。

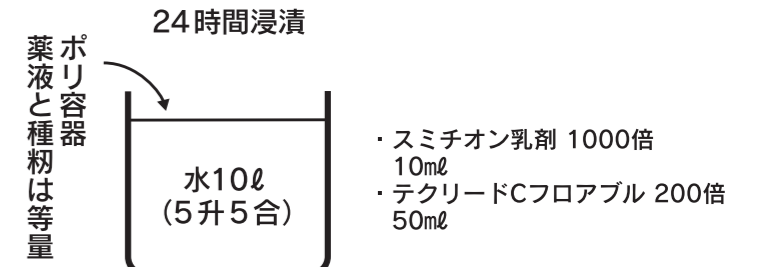
稚苗育苗基準

- ①育苗箱数 20箱/10a(目安)
②育苗日数 20日程度
③種子消毒 テクリドCフロアブル200倍+スミチオン乳剤1000倍の混合液に24時間浸漬する。消毒後は水洗せず薬液を十分切る。
④浸漬及び催芽 浸漬は必ず停滯水中で4~5日間(ヒノヒカリは1~2日長く浸漬)行う。白い芽が揃う程度とする。1日1回水を替える。

- ⑤育苗土 床土 みのりエース2kg/箱
覆土 みのりエース1kg/箱
⑥床土灌水 箱の底まで十分水がしみる程度とする。
⑦播種量 乾燥粉で150g/箱。催芽粉では180g/箱。
⑧覆土 みのりエース1kg程度で種子粉が隠れるように覆土する。
⑨立枯病防除 タチガレン液剤500倍500ml/箱(または1000倍1000ml/箱)灌注。
⑩出芽および緑化 平床出芽
覆土後直ちに均等に排水良好な場所に並べ被覆する。寒冷紗を用いる場合は、最初5~6日間は二重で、その後一重で2~3日間被覆する。

- ⑪灌水 被覆期間の灌水は1日1回程度とする。緑化~硬化期間は生育量に応じて灌水する。灌水は原則として日中とし、夕方は灌水しない。被覆期間は上部灌水とする。その後の硬化期間以降は下部給水も可能である。
⑫追肥 育苗後後に肥料切れがみられる場合は移植5日前までに育苗肥料4・4・4で追肥する。

種子消毒の仕方



品種特性表

Table with columns: 熟期, 品種名, 移植時期, 出穂期, 成熟期, 稈長, 穂長, 穂数, 収量, 耐倒伏性, 穂発芽性, 外観品質, 食味, 耐病性. Rows include 極早生, 早生, 中生 varieties.

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)防除剤

Table with columns: 剤系, 剤名, 散布時期, 10a使用量, 備考. Agent: スクミノン. Usage: 1~4kg. Note: 湿水状態(水深3~5cm)で散布し、散布後7日間は湿水状態を保ち、落水やかけ流しをしない。

一般施肥基準

Table for soil improvement materials and fertilizers. Includes 土力の素 (45kg) and ミネラルG (200kg).

稲わら、麦わらは良質な有機質! 全量すき込みを実施し、間断かん水でガス抜きを徹底!

Table for fertilizer application. Columns: 施肥項目, 基肥, 穂肥. Includes application rates for 夢つくし, 元気つくし, and ヒノヒカリ.

施肥の注意事項

- 1. 堆肥や土壌改良資材の施用、深耕などの土づくりを行う。
2. 緩効性肥料を基肥に用いる場合は穂肥の施用は不要。ただし、不足する場合は穂肥で調整する。
3. 高温対策のため、移植1週間前に散布する。
4. 収量、品質向上のために、ヒノヒカリ・元気つくしは2回穂肥を実施する。
5. 流し肥の実施は30a以下のほ場が望ましい。
6. 大豆後のほ場では、肥料の施用量を1~2割減らす。
7. 穂肥の施用は葉色の濃淡により施用量を決定する。

消毒済種子を使用の方は、別添資料をご確認下さい

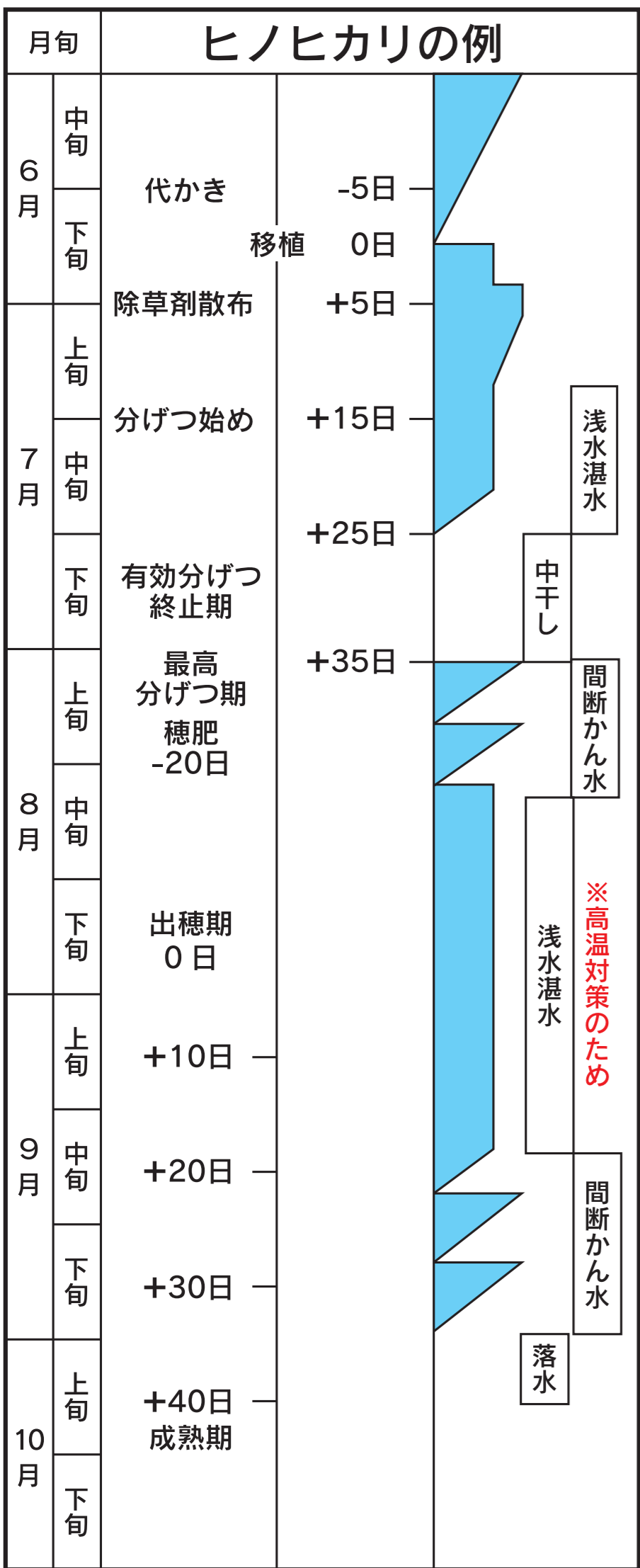
雑草防除基準

Table for weed control. Columns: 剤型, 除草剤名, 使用時期, 10a当り使用量, 使用上の注意事項. Includes agents like ジャンボ剤, フロアブル剤, ガソントZ, エンペラー, FG剤, ロイヤント, クリンチャー-EW, ハサグラン.

Table for weed control (continued). Columns: 剤型, 除草剤名, 使用時期, 10a当り使用量, 使用上の注意事項. Includes agents like ロイヤント, クリンチャー-EW, ハサグラン.

※除草剤散布後は水の管理に留意し、7日間の湿水状態を保つ。
※モグトン粒剤は、藻類発生ほ場では2~3kg/10a、表層はく離発生ほ場では1~2kg/10a散布する。(水稲3葉期以下の時期では葉害の恐れがある。)
※水田畦畔除草剤 サクサ液剤500~1000ml/10aとダイロンソル200~250ml/10a(100~150ℓ)を混用散布する。(水田畦畔雑草丈30cm以下)
※れんこん近隣田での除草剤使用の場合は、指導員に直接お聞きください。

水管理



- 以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断かん水を行う。
●田植え後10日~2週間(除草剤処理後7日間を除く)は、活着促進とジャンボタニシ予防のため3cm程度の浅水灌水をする。
●田植え後30日前後から中干しを開始する。
●幼穂形成期~開花期は水が最も必要な時期なので浅水灌水をする。
●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。
●充実を良くするために、収穫前の落水は遅くする。

夢つくし・元気つくし剤型別防除体系

Table for weed control systems for Mutsukushi and Genki Tsukushi. Columns: 剤型別防除体系 (粉剤, 液剤, 豆つぶ剤). Includes application rates and timing for various agents like ウンカ類, コブノメイガ, スタークル, カメムシ.

ヒノヒカリ剤型別防除体系

Table for weed control systems for Hino Hikari. Columns: 剤型別防除体系 (粉剤, 液剤, 豆つぶ剤). Includes application rates and timing for various agents like ウンカ類, コブノメイガ, スタークル, カメムシ.

無人航空機利用の防除体系

Table for weed control systems using UAV. Columns: 液剤体系. Includes application rates and timing for agents like スタークル液剤10, ウンカ類.

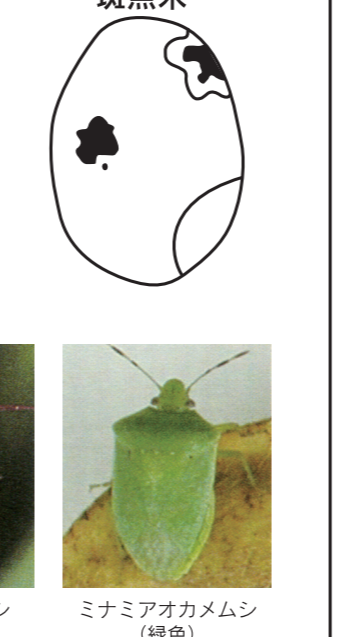
※箱施薬剤は、移植前日~2日前処理が効果的です。

※葉いもち多発の場合は、コラトップジャンボPを施用する。(初発20日前~初発時) 小包装(パック)10~13個
※前年度紋枯病が多発したほ場では、モンガリット粒剤を施用する。(収穫30日前まで) 3~4kg

※コブノメイガの発生が見られた場合
ロムダンゾル 1000倍・100ℓ (収穫21日前まで)

※コブノメイガの発生が見られた場合
ロムダンエア 16倍・0.8ℓ (収穫21日前まで)

Table for brown spot (カメムシ) control. Columns: 等級, 最高限度 (%), カルトン中の粒数. Includes images of the pest and its damage.



農薬散布の留意点

スタークル剤の使用については、出穂時期~開花期での散布はミツバチに悪影響をおよぼしますので、使用しないでください。
※適期に過量を均一に散布する。
※農薬散布の場合はマスクや防除衣を着用し、安全使用に注意する。
※近隣に野菜等のほ場がある場合は、風向き等に注意し、薬剤の飛散が無いよう防除する。

農薬の適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう!